

特性理解に基づいた 個別支援の実際について

～支援者としてご家族にお伝えしたいこと～



岡山白ゆり発達支援センター

石原 忍



第1部 個別指導の実際から

- ・ 書字指導の実際
- ・ 数量指導の実際
- ・ 言語指導の実際

第2部 すべては肯定的な自己理解の力を育てるために

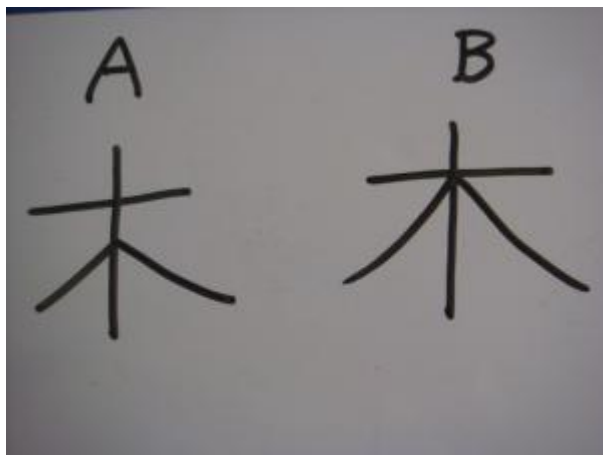
- ・ 肯定的な自己理解の力とは
- ・ 人とのかかわりの中で子どもは育つ

第3部 たくさんのエピソードからお伝えしたいこと

- ・ 大阪の校長室に乗り込む
- ・ 言語と非言語



漢字を正確に認知し、書く力を育てる



「先生、どこがちがうのか わからない」
「教えて」

見えていることと
認知できているこの乖離を支援する

(具体的な学習活動)

- 漢字にかかわる良質な視覚刺激 (パソコン)
- 漢字に読み仮名をふる (視覚支援&先行刺激)
- 複雑な漢字はパーツに分解 (立つ木に見る → 「親」)
- 視知覚認知の弱さ → 4分割のマス目を利用
- 聴覚性の言語支援 「たて・かぎ・たて・横・横」 = 「田」
- アウトプット=美しい字 間欠強化スケジュール 達成感

数を量的にとらえて処理できる力を育てる

順序数との出会い(数との出会い) ⇔ 切り替えができない

数を量的にとらえる
活動体験そのものの不足 + 継次処理優位の
認知処理特性

15-9 (減減法から減加法へ)

(具体的な学習活動)

- 各種算数ゲーム (数え棒、お買い物、すごろくゲーム)
- ブロックによる操作活動 (数の合成・分解)
〈1予備刺激 2教示 3プライミング 4自力操作
5簡略化 6念頭操作 7一般化〉
- プリント学習 (スモールステップ 系統化)



文章を読み、尋ねられた内容に答える力を育てる

- 豊かな聴覚性言語 内言語 理解言語
- △ 文字を見て、音声化・内言語化していく体験不足

(具体的な学習活動)

「かさこじぞう」(自作教材による実践)

- ・ 視覚認知の脆弱さへの支援 (横書き26P ひらがなルビ)
- ・ 内容に力のある教材(子どもを引きつける教材)を選択
- ・ まずは支援者が範読し、内言語をあたためる
- ・ 選択問題を先に取り組ませ、次に穴埋め問題をさせる
(理解言語をもとに、文脈の中からキーワードを見つける)
- ・ 1枚あたりの内容を精査し、たくさんの枚数をクリアさせる

肯定的な自己理解力

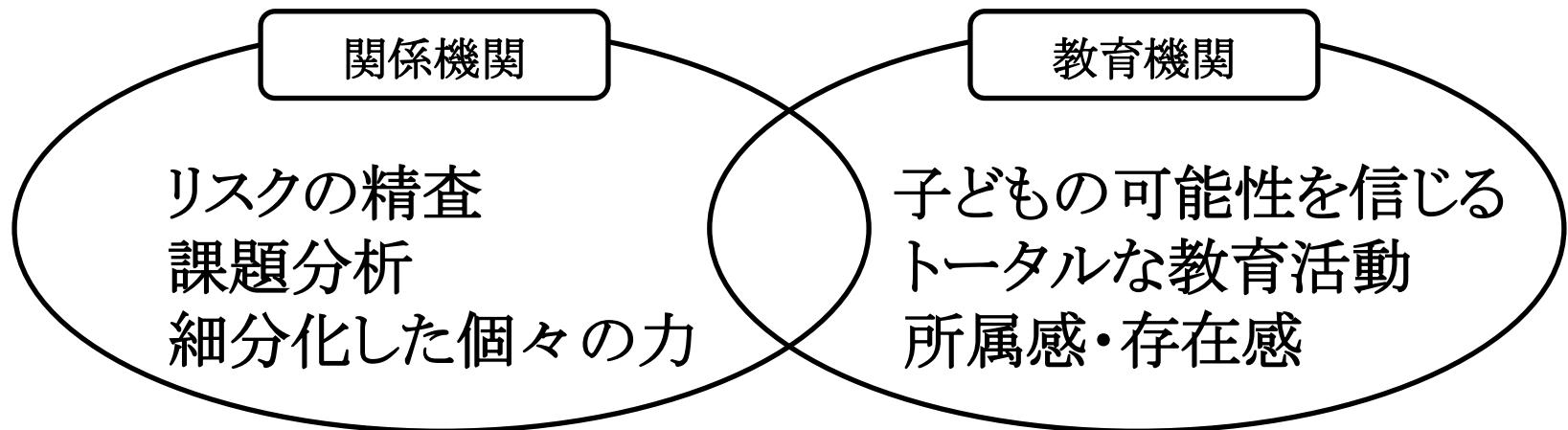
自分の苦手なことも含めて、ありのままの自分を肯定的に受け入れた上で、自分をメタ認知・コントロールできる力

(私、運動は苦手だけど、お話を読むのは大好き。これからもずっとたくさんの本を読んでみたい。本屋さんとか、図書館で働いてみたい。でも、苦手な運動も、ちょっとはがんばる)

(おれも算数きらいだったから、今のたけし君の気持ちが何となくわかる。今度、同じグループになったら、たけしくんといっしょに勉強してみたい…)



- 学校は唯一無二の教育機関 「先生、すげえ」
 - ・ 子どもの可能性を信じること
 - ・ 集団の中に居場所がしっかりあること
 - ・ 自己肯定感は、他者からの評価で培われる
(△自分 ○先生・支援者・家族 ◎クラスの仲間)
- 教育の機能が充実してこそ、関係機関との連携が生きる



第3部 たくさんのエピソードからお伝えしたいこと

- 大阪の校長室に乗り込む
- 言語と非言語
- 山ちゃんの結婚式
- 必ず涙を落とす席
- 主体者だからこそ、支援者が必要
- 君ってしゃべれるんだ
- 家族だからできること 家族だからできないこと
- 私を必要としなくなるその日のために

